



小川小学校

○ 考える子 ○ 優しい子 ○ 元気な子

学校だより



令和2年6月19日 No.9

《レジリエンス・立ち直っていくしなやかさ》

学校が再開され、3週間が過ぎました。子供たちは、とても生き活きとして見えました。そして、久しぶりに子どもたちと向き合い、授業に臨む教職員の姿も輝いて見えました。

友だちに会いたい、先生に会いたい、勉強をすすめたいなど、これらを待ち望んでいた気持ちが、爆発したかのように活気を帯びている学校の姿が見られます。「みんな学校が好きなんだなあ」と思うと、とてもうれしくなりました。子供の表情、姿、動きが見えることの素晴らしさを感じます。

また、子供たちの笑い声、「はい」という返事の声、「よろしくお願いします」という揃った声など様々な音が聞こえてきます。机や椅子がゴトゴトと動く音などが心地よく聞こえます。

このようなあたりまえのこと一つ一つに、学校という存在の大きさ、そしてありがたさを改めて、五感で感じる良い機会になりました。

ところで、私が以前に参加した研修会やたまたま見つけた本に特集として「凹んでも前を向く」の中に出ていた「レジリエンス」という言葉を思い出しました。日本では、あまり聞き慣れない言葉ですが、「不屈力、回復力、立ち直り力など」という意味です。私が偉そうなことは言えませんが、今、最も必要な言葉のように思えます。この本の中で加藤諦三氏（早稲田大学名誉教授）が次のように述べていました。**「レジリエンスのある人は、自分で自分を励ますのが上手で、人生は必ずよくなると信じ、今の困難でなく、常に未来を見ている。体は今にあるけど、心は未来にある。」**なんとも深い言葉です。



学校が再開され、活発に活動している子供たちの様子を伺っていると、もしかすると、大人より子供たちの方が、この「レジリエンス」を持っているのかもしれないなと思いました。

《引き続き、ご家庭でもお子さんの思いをじっくり聞いてください》

すべての子供が「レジリエンス」を持っているわけではありません。また、新聞の記事にこのようなことが書かれていました。「子供の中には不安な気持ちを言葉でうまく表現できず、遊びの中などで表現することがあります。」

また、おなかや体が痛いと言ったり、年齢より幼い行動をしたりする「退行現象」も起きやすいとも言われています。「赤ちゃん返りのようなものが中学生くらいでも起こり得る。子どもが日常と違うことを感じているのだと理解し、否定せず、受け入れて」と小児科医の吉岡さんは述べておりました。

(R2.4.28 西日本新聞より)

《先生が児童一人一人の思いを聞きます》

担任の先生と児童一人一人が面談を行います。ここでは、3か月の臨時休業のことや勉強のこと、友達のことなどの話を個別に聞きます。日時や方法は次のとおりです。

- 1 日 時 6月29日（月）から7月3日（金）の間
14：00頃から
- 2 方 法 ①同じ下校地区の児童が各クラス8～15名程度残ります。
②各教室で個人面談を行います。（一人ずつ実施）
③待っている児童は、多目的室などで宿題等を行います。
④全員が終了次第、下校となります。（15：00～15：30頃）
- 3 備 考 ①面談がない児童は、学年下校です。
②面談実施日や終了時刻は、各担任よりお知らせします。
③面談後、習い事などで同じ地区の児童と帰れない場合は、担任にご連絡ください。

《小川小学校の感染症予防の取組》



【外に出るとき、給食前にはマスクをジッパー付きのビニール袋に入れます】



【検温や体調が悪くなった児童は保健室ではなく、会議室に来てもらいます】



学校で体調が悪くなったり、熱が上がったら、会議室で待機させます。
（早退の連絡を保護者の方にします。）